

# ボランティアセミナーin ネイパル森

## 1, 趣 旨

講義や体験活動を通して施設ボランティアの意義を理解するとともに、リーダーとしての資質向上と実践的意欲を高め相互の交流を図る。

## 2, 期 日

平成26年4月19日(土)～20日(日) 1泊2日

## 3, 主 催・実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

## 4, 参加対象

青少年教育施設でボランティアを志す高校生以上の方

## 5, 参加実績

人数 16名 ※以下内訳



学校名	参加者(性別)		合 計
	男	女	
教育大函館校	4	4	8
札幌国際大学	1	0	1
森高校	0	4	4
一般	1	2	3
合 計	6	10	16

※うち、新規ボランティア登録者(6名)

※上記16名(昨年度より継続者10名、新規6名)



## 6, プログラム内容

	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
19 土	12:30 受付 13:00 開会式	開 会 式	☆アイスブレイク ☆活動1「秘密基地づくり」			夕食 自由	☆ナイトタイム ☆ふりかえり		入 浴 自由時間	就 寝
20 日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		起床 掃除 洗顔	朝食	準 部 屋 点 検 備	☆活動2「自然と遊ぼう」		昼食	☆ふりかえり	閉 会 式	15:00 解散

## 7, 活動の様子

1日目は、開会式終了後、事業のねらいなどについてオリエンテーションを行い、本セミナーのテーマは「グループカウンセラー(リーダー)にとって必要なスキル」であることを説明し、アイスブレイクを実施。ボランティアとして子ども達と接する中で実践的に使っていけるようなゲームを体験した。場所を変え施設外の森へ移動し、2グループに分かれ[ブルーシートを使ってグループ一人一人にとって居心地よい夕食タイムを送れるような基地をつくろう]ということ全体で目標を共有し、参加者は各グループで話し合いを行いながら工夫を凝らしながら活動していた。参加者からは、「初めて会う人と話すことで自分の新しい一面に出会えた」、「話す中で仲間の価値観にふれ勉強になった」という感想があった。夕食を基地で食べた後は、一日目の活動についてふりかえりを行った。この時間は、本事業で一番心に残っている時間として参加者から多く声が上がっていた。「ふりかえりを行いながら自分と向き合えた」「ロウソクをつけ宣言する時間が心に残っている」「今日できなかったことを明日はできるようにしよう、と前向きな気持ちになれた」などの声があった。

2日目は、1日目に作った基地の場所でそれぞれフィールドを活かしたゲームを企画し発表を行った。最後に、閉会式で阿部所長より「今回学んだことを今後の事業に活かして欲しい」と挨拶し終了。全体をとおし参加者から、「初めて会う人と打ち解けることがどれほど難しいか知ることができた」「活動の合間に、初めて会う人とたくさん話すことができ交流できた」「森の中にブルーシートで基地を作るのは初めてで、活動の一つ一つに意味があり、大変ためになった。」など聞くことができ、参加者は今後

も事業に参加したいと意欲をみせていた。

## 8、参加者の声

(以下アンケートより抜粋)

- 1日目の自分とその反省を活かし、2日目はとても有意義な時間だった。
- 今まで何回かボランティアセミナーに参加はしていたものの、まだまだ勉強が足りないと思い今回参加しました。この経験を活かしていきたいです。
- 今回の事業で考えたことを次の事業で実践したいと思っています。

## 9、事業の分析と考察

本事業の趣旨が「講義や体験活動を通して施設ボランティアの意義を理解するとともに、リーダーとしての資質向上と実践的意欲を高め相互の交流を図る。」であり、“グループカウンセラーとして必要なスキル”をテーマとして体験的な活動とおとした研修会として実施した。また、今後継続してボランティア活動していけるよう意欲を高めていくことが本事業で大切であると考えます。

今回の事業では、参加者の「やる気」を引き出すプログラム構成とした。参加者の声にもあるように、単なる体験で終わらず「ふりかえり」をしっかりと行うような内容とすることで、自分自身の分析を行いながら、それぞれ参加者が新しい自分を発見し、学ぶセミナーとすることができた。その結果として、参加者16名のうち新規6名全員が年間ボランティアとして登録をし、5月5日に実施した主催事業「子どもの日まつり」に、参加者16名のうち13名が活躍した。

このことから、本事業の内容が意欲を高め、実践的な活動に結びつくことができたのではないかと考える。



## 10、成果と課題

### ○成果

- ・時間にゆとりをもったプログラム展開は、参加者にとって心の余裕ができ、合間の時間で参加者それぞれが十分に交流を深めることができた。
- ・しっかりとふりかえりの時間を設けることで、自己を見つめ学びを深めることができた。また、翌日の活動の質を高めていくことができた。

### ○課題

- ・本事業に参加したボランティアが、今後も継続して事業に参加してほしい。そのために、定期的なボランティア交流会や勉強会を開くなどの工夫が必要。

